

# 食を彩る工芸 現代工芸と茶懐石の器展

Crafts for Cuisine: Contemporary Crafts and Vessels for Tea-Ceremony Dishes

2024年11月22日(金) ~ 12月1日(日)



開館時間：午前9時30分～午後5時30分 ※入館は閉館の30分前まで

休館日：11月25日(月)

観覧料：無料

会場：国立工芸館 多目的室1

主催：国立工芸館

掲載用問い合わせ先：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

# 新しい時代を感じさせる 石川の若手工芸家たちがつくる茶懐石の器

## 概要

本展は現在石川県を拠点に活躍する8人の若手工芸家が新たに制作した茶懐石の器によって、新しい石川の工芸と食文化の魅力を発信します。

この地域で茶道が盛んであることは広く知られていますが、加えて多様な海の幸、城下町ではぐくまれた加賀料理など、彩り豊かな美しい料理が好まれ、味覚だけでなく視覚を楽しませてきました。一方で自他ともに認める工芸王国であるこの地では、伝統的家業に生まれた者だけでなく、その魅力に他県から移住してきた者たちによって、多様な工芸の技術が継承され、新たなつくり手を生み出しています。今回は、そのような新しい時代を感じさせる工芸家の感性によって作り出された茶懐石の器をご紹介します。会場では実際の器とともに料理を盛り付けた写真も展示します。食のイメージを膨らませ心豊かな時間をお楽しみください。

## 本展のポイント

- ▶ 石川県在住の若手工芸家が本展のための新作となる茶懐石の器を発表！
- ▶ 料理を盛り付けた写真も展示し、想像力を刺激します！
- ▶ 「工芸王国石川」を新しい時代を感じさせる工芸家の感性で自由に表現！

## 出品作家プロフィール



池田晃将 (いけだてるまさ)

1987年、千葉県出身。2019年の「電光装飾-Cyber Effect-池田晃将漆芸展」(日本橋高島屋S.C6階美術工芸サロン/東京都)や、直近では2023年の「虚影蜃光-Shell of Phantom Light」(金沢21世紀美術館 デザインギャラリー/石川県)など多方面で活躍している。

1991年、岐阜県出身。2019年の東京テーブルウェアフェスティバル 黒田和哉審査員賞をはじめ、2023年には第79回金沢市工芸展で金沢市長最優秀賞を受賞、翌2024年には第80回金沢市工芸展で金沢市工芸協会会長賞を受賞した。



板屋成美 (いたやなるみ)



川北浩嗣 (かわきたひろし)

1991年、石川県出身。第69回日本伝統工芸展など入選。2024年には第80回現代美術展(石川県立美術館 ほか)で北國賞、「害蟲展season5」(MATERIO base/東京都 ほか)で5周年特別審査員賞 服部雄二賞を受賞した。

1989年、秋田県出身。「Half point -6人の現在点-」(旧石井県令邸/岩手県・2014年)から2023年の個展「まとう絲」(縁煌/石川県)まで出品多数。2022年に第16回パラミタ陶芸大賞展大賞、2024年には第34回タカシマヤ美術賞を受賞。



澤谷由子 (さわやゆうこ)



杉本小百合 (すぎもと さとる)

1996年、滋賀県出身。2021年の第44回金沢漆器作品展にて金沢市長賞、翌2022年の第45回金沢漆器作品展にて石川県知事賞など受賞多数。2024年に金沢卯辰山工芸工房研修者作品展で工房賞を受賞し、同工房を修了した。

1987年、栃木県出身。2023年、「疾風怒濤—現在を駆け抜ける髹漆表現—」(石川県輪島漆芸美術館/石川県)、KOGEI Art Fair Kanazawa 2023(ハイアット セントリック 金沢/石川県)、2024年にはART FAIR TOKYO. 2024(東京国際フォーラム/東京都)など出品。



五月女晴佳 (そうとめ はるか)



時田早苗 (ときた さなえ)

1996年 東京都出身。2024年に第80回記念金沢市工芸展で北陸放送社長賞を受賞したほか、ART FAIR TOKYO. 2024(東京国際フォーラム/東京都)、ラビット・ドラゴン・マウン展2024(高島屋美術画廊/京都府・大阪府)に出品している。

1981年、東京都出身。2016年第11回パラミタ陶芸大賞展で大賞受賞(パラミタミュージアム/三重県)、2019年、Kutanism「天外の饗宴」(那谷寺/石川県)、2021年、北陸工芸の祭典GO FOR KOGEI 2021(大瀧神社・岡太神社、福井県)、2022年には国立工芸館「ジャンルレス工芸展」に出品した。



牟田陽日 (むた ようか)

## 同時開催

### 心象工芸展(～2024年12月1日(日))

沖潤子、佐々木類、高橋賢悟、中川衛、中田真裕、松永圭太の6名の作家による、心象風景や社会との関わりをモチーフにした工芸作品をご紹介します。素材への理解や高い技術だけでなく、今の時代を生き、自己の内面を表現する現代の美術家としての彼らの作品をお楽しみください。



## 次回展予告

2024年12月17日(火)～2025年2月24日(月・休)

### 反復と偶然展

反復と偶然という対照的な言葉を鍵に、工芸・デザイン作品を紹介。反復する技術が造形につながる作品や、複数揃える用途のあるものなど、反復から生まれる形には工芸やデザインならではの特徴がみられます。一方で自然素材がもつ偶然性が反復を打ち破り、作品の魅力となることがあります。両極の特徴から工芸の魅力を探ります。



国立工芸館  
National Crafts Museum

〒920-0963 石川県金沢市出羽町3-2  
<https://www.momat.go.jp/craft-museum>



アクセス バスにて JR金沢駅兼六園口(東口)より  
【北鉄バス】

3番乗り場：どの系統でも乗車可、「広坂・21世紀美術館(石浦神社前)」下車徒歩7分

6番乗り場：乗車(「柳橋」行を除く)、「出羽町」下車徒歩5分

8番乗り場：どの系統でも乗車可、「広坂・21世紀美術館(しいのき迎賓館前)」下車徒歩9分

車にて

北陸自動車道金沢西ICまたは金沢森本ICから20～30分。

近隣に文化施設共用駐車場(無料)があります。

報道関係の方の  
お問い合わせ先

国立工芸館 広報事務局(株式会社OHANA内)

Tel:03-6869-7881 Fax:03-6869-7801 E-mail:ncm@ohanapr.co.jp

## 広報用画像一覧



No.1 全体写真  
撮影：野村知也



No.2 池田晃将《青貝紫電片口》  
2024年  
木地：川北浩嗣  
撮影：野村知也



No.3 板屋成美《彩飾器》2024年  
撮影：野村知也



No.4 川北浩嗣《樺造盆》2024年  
撮影：野村知也



No.5 澤谷由子《露花》2024年  
撮影：野村知也



No.6 杉本小百合《遇雲歌》2024年  
木地：川北浩嗣  
撮影：野村知也



No.7 五月女晴佳《CHU CHU CHU》  
2024年 撮影：野村知也



No.8 時田早苗《卵殻小吸物椀「風」》  
2024年  
木地：川北浩嗣  
撮影：野村知也



No.9 牟田陽日《潮騒鮑皿》2024年  
撮影：野村知也

\* 上記画像No. 1～9を広報用にご提供いたします。  
ご希望の方は当館ホームページの画像提供システムよりお申し込みください。  
<https://www.momat.go.jp/craft-museum/reproduction>

